

3 令和元年度 発掘調査の成果

◇北東調査区トレンチ1では、堀切5と土塁の基盤とみられる部分を検出しました《写真1・3》。土塁が組み合わさり、南北へ伸びていたと推定されます。
⇒柏木城跡曲輪4東端部と北側の急斜面との間を、堀切5・塹壕と土塁で遮断することで、当時、戦をしていた伊達政宗の軍勢が松原から会津側へ侵攻するのを防ごうとする意図がうかがわれます。

◇北東調査区トレンチ2では、堀切5の上端部分を確認しました《写真4》。

⇒曲輪4東端から延びる塹壕・土塁とはやや離れており、堀と土塁が折れ曲がるか、喰い違いとなっているものと思われます。

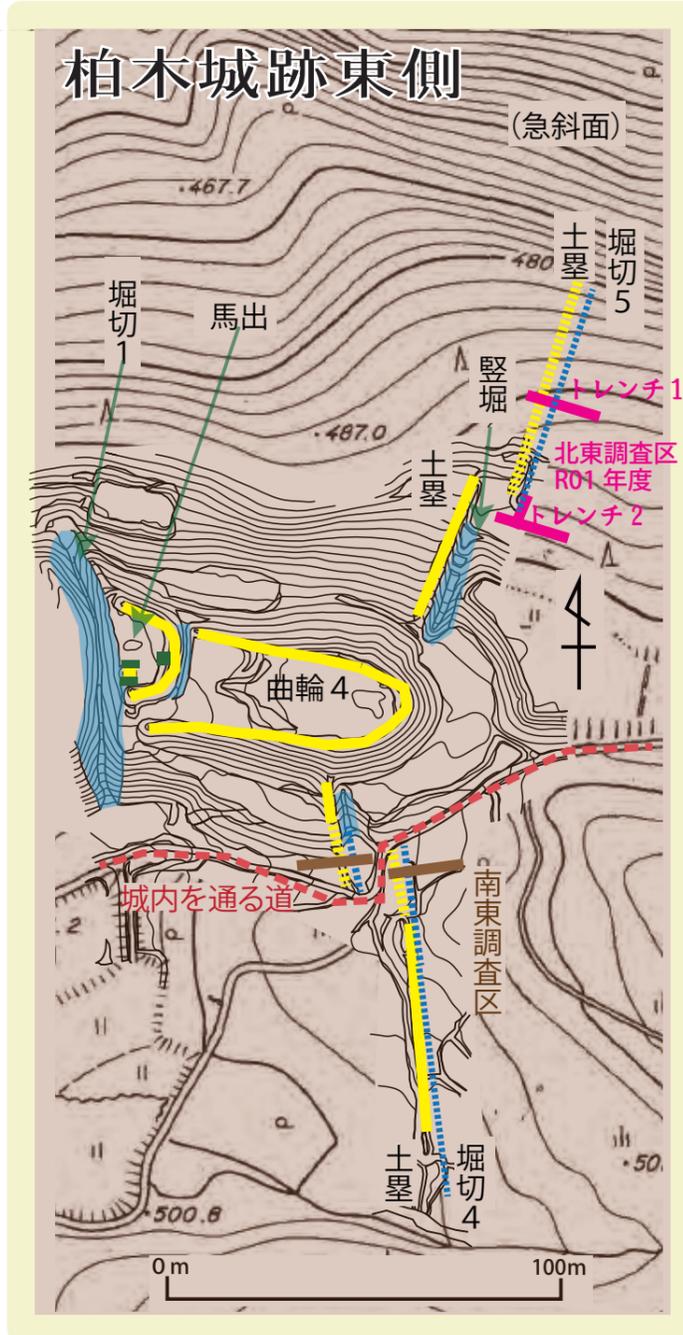
☆成果

今回の調査により、南東調査区と同様に、北東でも、堀と土塁が組み合わさり、柏木城東側の防御のための遮断線を形成していることが確認されました。

⇒この柏木城北東と南東の防御遮断線は曲輪4を挟んで一体的なものとなり、伊達政宗の軍勢がくる東側を厳重に守る施設であったと考えられます。

◎これまでの調査で、会津の蘆名氏が、戦争中の伊達氏の侵攻を防ぐために、米沢に通じる幹線道路（米沢道、後の米沢街道）を城内に通し、往来する人々の監視などで様々な工夫をしている可能性を指摘できるようになりました。

◎柏木城跡は中世会津蘆名氏の城づくりや、城と道を組み合わせた領国防衛の考え方を手がかりとなる重要な遺跡であるといえます。



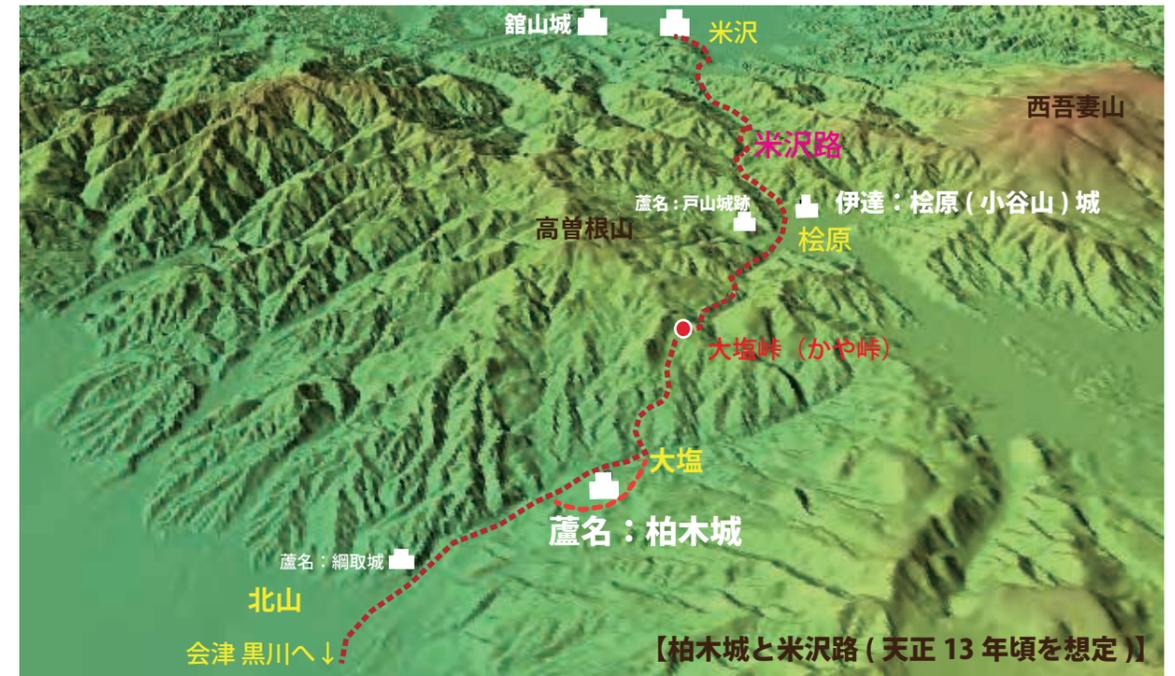
令和元年度

柏木城跡 発掘調査現地説明会

1 柏木城跡とは・・・

柏木城は戦国時代の終わり頃、会津の蘆名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐために造られたと伝えられています。天正13年(1585)の伊達政宗の松原略取からはじまった会津侵攻の際、大塩に城があったという記述があり(政宗記)、今からおよそ430年前頃には存在していたとみられます。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口(虎口)や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。



2 発掘調査の目的

北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や、江戸時代の米沢街道・鉢山跡などの歴史的な遺跡群を、将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成20年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

平成26年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるため、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て発掘調査をはじめました。発掘調査は今年で6年目となります。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村では将来的に国の史跡指定を目指しており、指定に向けて、文化庁・福島県教育委員会文化財課のご指導も受けています。

北塩原村教育委員会 《令和元年10月27日発行》

〒966-0402 北塩原村大字大塩字下六郎屋敷2134番地

電話 0241-23-5236

《柏木城跡は私有地です。見学の際はマナーを守りましょう。》